

# 2020年 新しい年、北海道から世界へ



一般財団法人北海道開発協会会長

## 内田 和 男

新年おめでとうございます。皆さまには清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

令和の新たな歴史の始まりに相応しく、東京オリンピック・パラリンピックの年が明けました。オリンピックではマラソンと競歩が札幌で実施されることとなりました。これは偶然のことではなく、地球温暖化の中で北海道の位置付けが再評価されたこと、北海道という広い地域が今の時代においてもまさに人と自然が事にバランスを保っていること、さらに冬季オリンピックや毎年の北海道マラソンの開催といったこれまでの開発基盤を活用した実績があったことによるものと考えます。マラソン競技はオリンピックにおける花形競技であり、競技とともにその舞台となる沿道景観は全世界に放送され、札幌や北海道の魅力を全世界に発信する絶好の機会となります。

また、オリンピックに先立ち、4月にアイヌ文化の復興等と国際観光・国際親善に寄与することを目的としてウポポイ（民族共生象徴空間）がオープンします。これらを契機として北海道の豊かな自然環境や安全で高品質な道産食品、独自の歴史や文化等の魅力を幅広くPRし、地域性豊かで多様性に富んだ文化や観光資

源を国内外に発信していくことが期待されます。

令和2年度からは第2期地方創生総合戦略が策定・実施されることとなりますが、北海道開発協会といたしましても、新たな時代の要請を踏まえた北海道開発の推進に寄与できますよう、産学官民と連携しながら、地域活性化に資する調査研究、広報活動、研修会の開催など、積極的に実施してまいります。

調査研究では、北海道の地方でも外国人労働者が増加していることから、2019年度より「外国人材の活用に関する研究会」を立ち上げ、農業や水産業等の現場の実情や対応すべき課題について調査しています。また、インバウンドの増加に対応し、海外留学生による地方へのモデルツアーを実施し、外国人の視点による地域の魅力発掘と情報発信を図っています。さらに、研究助成では、自然災害リスク等に関する研究成果を公開し、道民の防災リテラシーの向上に努めました。これらの研究成果については、当協会発行の月刊広報誌「開発こうほう」に分かりやすく紹介していきます。

新しい年が北海道の未来を輝かせる飛躍の年となり、皆さまにとって豊かな希望の年となることを祈念しまして、新年のご挨拶といたします。